

# 工学部創立100周年を迎えて

工学部長・工学研究科長

明石 行生



工学部と工学研究科は、1923年12月10日の福井高等工業学校の創立からの100年の間、地域の行政と産業界から多大な支援を受けたお陰で、戦争、地震、洪水などの幾多の艱難を乗り越えてきました。同時に、地域の復興と産業の発展に貢献してきました。今後の100年間、地域とともに発展する大学であり続けるためには、工業会と現役の学生及び教職員で構成する工学部コミュニティの一層の強化が必要だと思います。

工学部・工学研究科は、これからも「研究」を通して社会貢献し、国際交流し、地域貢献し、さらに人材育成を続けたいものです。原子力、遠赤外領域、繊維マテリアル、カーボンニュートラル、AI・データサイエンスなどの本学の重点分野はもちろん、教員が携わる全ての分野において世界レベルの成果を出せるよう、研究活動に尽力することを工業会の皆様に約束します。一方、福井大学工業会の皆様には、「研究」を通じた社会貢献及び国際交流とそれらに基づく人材育成は、工学系の高等教育に特有で効果的な教育体系であることをご理解いただきたく存じます。

2023年度は、私の研究室に卒論生5名と修士学生2名と社会人ドクター学生1名が在籍しました。まず、彼らは世界的にも高いレベルの照明工学の研究に挑戦してくれました。さらに、努力して得た唯一の研究成果を科学技術の発展に貢献するという責任感を持って論文や梗概として発表しました。その際、研究成果を世界に広く知らしめることを使命と自覚し、論理的な説明を心掛け、プレゼンテーションを何度も練習し、コミュニケーション能力に磨きをかけました。彼らの研究成果と努力は報いられ、2023年度に国内学会の優秀ポスター発表者賞2件を獲得しました。同年、卒業生の研究成果は、国内学会の論文に対して研究奨励賞1件、英語論文に対して英国学会の論文賞1件を獲得しました。また、学内の卒論発表会と修論公聴会においても高く評価されました。その結果、受賞学生は研究者・技術者としての自信を得て、一方、受賞していない学生も世界に通用する研究に携わっていることを認識できたはずでした。さらに、工業会誌にも紹介いただいたキャンパスイルミネーションへの参画により、地域貢献しながら学生たちのリーダーシップ・チームワーク力が涵養されました。この春、私は指導教員として、学生たちの成長に感心しながら5名の学生を送り出すことができました。以上は決して私の研究室に特有の出来事ではなく、本学工学部・工学研究科の多くの研究室における日常的な風景です。同時に、国立大学で16年間就職率No.1の実績の証左でもあります。

今後も地域とともに発展する工学部・工学研究科であり続けるために、工業会の皆様におかれましては、上述の充実した教育体系を高く評価していただき、より一層、工学部・工学研究科の人材育成にご協力いただきたいものです。

第一に工学研究科博士前期・後期課程に進む日本人学生と外国人留学生が研究に集中できるように、彼らの生活費となる奨学金をご寄附いただきたいと思います。日本の科研費や共同研究費には、学生の人件費や奨学金を積み上げられるような余裕がありません。日本における理系人材を育成する高等教育に対する社会的評価と人材育成に関わることへの責任感の低下が日本の科学技術の低迷に繋がっているように感じます。一定額以上のご寄附をいただいた企業の方々には、工学部と工学研究科の学生に向けた講義やセミナーなどで講演いただく機会を増やす計画であるため、企業にとっても優秀な学生の獲得に繋がるかと思えます。

第二に、現在社会的に注目されているリカレント教育やリスクリテラシー教育として、本学の工学研究科博士前期・後期課程を活用いただきたいと思います。例えば、企業内研修として積極的にこれらの課程に、社会人博士・修士学生を派遣いただければ、企業にとっては人材育成と技術力の向上に役立つと思えます。

上述の2つの提案を工業会の皆様と共に具現化する過程において、工学部コミュニティはより強固なものになり、具現化した仕組みは本学の研究力の強化と日本の科学技術の復権に繋がると期待します。2024年7月20日(土)に工学部創立100周年記念大会を開催する計画です。工学部・工学研究科の現状把握と将来の人材育成への参画の機会として、ぜひご参加いただくようお願いいたします。